

7. ボランティアリーダー育成事業

ボランティア・NPO 活動センターでは、本学の学生を対象にボランティアに関する各種講座を実施しています。入門編として、ボランティアについての基礎的な講義とボランティア体験を行う「ボランティア入門講座」、応用編として、センターを運営する学生スタッフや既にボランティア活動を行っている学生を対象に、スキルアップや組織運営の向上を目指した「ボランティアリーダー養成講座」を開催しています。

事業名	ボランティア入門講座	
	深草キャンパス日時／参加人数	瀬田キャンパス日時／参加人数
第1回	2018年5月14日(月)17時30分～19時30分／43名	2018年5月15日(火)17時30分～19時30分／37名
第2回	2018年5月20日～6月3日の土、日に計8ヶ所(5日間)で体験を実施／参加者90名	
第3回	2018年6月4日(月)17時30分～19時30分／29名	2018年6月5日(火)17時30分～19時30分／39名
協力	受入団体：9団体（第1回・2回）／第1回～3回の協力スタッフ：延べ39名	
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター	

1. 経緯・目的

学生が何か新しいことを始めたいと感じる年度初めに、毎年本講座を実施しています。ボランティアに関心はあるが、活動未経験や活動経験が少ない本学学生と、ボランティア・NPO 活動センターの学生スタッフ新登録者を参加対象とし、その後のボランティア活動に繋がるきっかけとなることを目指しています。

全3回の構成で、第1回目ではボランティアの基礎的な考え方について講義形式で学び、第2回目に地域の団体で実際にボランティア活動を体験、第3回目はセンターの学生スタッフがリーダーとなってそれぞれの体験をふりかえるグループワークを行います。最後にセンターで現在紹介しているボランティアを紹介して今後の活動につなげます。

2. 概要

第1回 講義「ボランティアって何だろう」

講師／内容（両キャンパスとも）：

林 寛人さん（大阪ボランティア協会）



- ・ボランティアのイメージ、ボランティアクイズ
- ・「こんなときどうする？」みんなで考えよう
- ・社会課題ってどんなものがある？
- ・気持ちよく活動するコツ
- ・ボランティア活動経験者の声
- ・自分に合った活動の見つけ方
- ・ボランティアの多様性（分野別ボランティア紹介）
- ・こんなこともボランティア（寄付・寄贈等）

第2回 ボランティア体験プログラム

8ヶ所（5日間）に分かれてボランティア体験

①5月20日（日）芸術・障がい分野の活動



受入団体：とっておきの音楽祭 in ひらかた実行委員会

参加人数：体験学生10名に学生スタッフ1名、コーディネーター1名が引率

活動場所：京阪枚方市駅前にぎわい広場

活動内容：心のバリアフリーを目指す「とっておきの音楽祭 in ひらかた」の運営補助

②5月20日（日）環境分野の活動



受入団体：森の風音
参加人数：体験学生5名、体験教員1名に学生スタッフ3名、コーディネーター1名が引率
活動場所：びわこ文化公園
活動内容：里山保全活動（除草など環境整備）、森のようちえん見学、森の散策等

③5月26日（土）環境・まちづくり分野の活動



受入団体：NPO 法人京都・深草ふれあい隊 竹と緑
参加人数：体験学生26名に学生スタッフ3名、コーディネーター2名が引率
活動場所：京都市伏見区深草地域の竹林
活動内容：放置竹林整備、農道整備、不法投棄ごみ回収、ブルーベリーの手入れ等

④5月26日（土）国際協力分野の活動



受入団体：認定NPO 法人アクセスー共生社会をめざす地球市民の会
参加人数：体験学生6名にコーディネーター1名が引率
活動場所：団体事務所(京都市伏見区深草西浦町)
活動内容：フェアトレード商品(クリスマスカー

ド)の検品作業等

⑤5月27日（日）子ども分野の活動



受入団体：公益財団法人京都市都市緑化協会
参加人数：体験学生7名に、学生スタッフ1名、コーディネーター1名が引率
活動場所：京都市左京区宝が池公園
活動内容：子ども向けイベント「龍狐伝説」の運営補助（受付、PR、遊びのコーナー等）

⑥6月2日（土）環境・まちづくり分野の活動



受入団体：京都市伏見区役所深草支所 桃山プロジェクト
参加人数：体験学生18名、体験教員1名に学生スタッフ6名、コーディネーター1名が引率
活動場所：京都市伏見区深草地区～大岩山一带
活動内容：深草トレイルコースのごみ拾いハイキング、大岩山山頂の桃の木周辺の環境整備

⑦6月2日（土）子ども分野の活動



受入団体：NPO 法人 CASN
参加人数：体験学生6名にコーディネーター1名が引率

活動場所：大津市栄三自治会館

活動内容：晴嵐子ども食堂で子どもと遊ぶ

⑧6月3日（日）障がい分野の活動



受入団体：社会福祉法人美輪湖の家

大津障害福祉サービス事業所瑞穂

参加人数：体験学生10名に、学生スタッフ4名、
コーディネーター1名が引率

活動場所：団体施設内（滋賀県大津市中庄）

活動内容：みずほ祭り運営補助(子どもの遊び、
販売、喫茶、駐車場等)

第3回 活動のふりかえり

8ヶ所で様々な体験をしてきた参加学生たちが、映像を順次見ながら全員が発表し、グループでじっくり共有しました。その後、「ボランティアをひとことで表すと?」「学生がボランティアに関わる意味は?」を考えるワークを行いました。最後に、学生スタッフからのオススメボランティア「私の一押し!」の紹介に、熱心に耳を傾けていました。



4. 受講者の声

- ・活動先の方がとても親切で、色々なことを体験することができたのと、ふり返りまでやることができ、他のボランティアのことを知ることができ楽しかったから、これからもボランティアをしたいと思えた。
- ・ボランティアに関する講義を受け、実際にボランティア活動をして、ふり返りをするという一連の講座は非常に良い機会になった。特に、3回目の講座ではグループワークや発表を通して、他の分野の活動の内容も知ること

ができ、興味深いものだった。参加して良かったと思う。

- ・普段自分では体験できないことだったので大変だったけれど、話を聞いたり実際に目で見て、自分の住んでいるところのを知れてよかった。
- ・実際にボランティアをすることで、障がい者への考え方が変わった。もう少し周りを見て動けるようになりたい。
- ・色々な視点からの意見も聞けたし、自分も楽しかったので大満足です。

5. コーディネーター所感

第1回の講義では、林さん自身のボランティア体験を踏まえ、活動者の声をいくつも紹介いただいたり、多様な分野のボランティアがあることなどをわかりやすく教えていただきました。また、サントリー創設者鳥井信次郎氏の「やってみなはれ!」を引用し、後押ししてくださいました。

第2回の体験プログラムでは、8ヶ所の体験先へセンターの学生スタッフとコーディネーターが同行し、安心して取り組めたと思います。各団体の皆さんには快く受け入れていただき、また活動後の振り返りにも同席のうえ、学生たちの質問に丁寧に答えていただき感謝しています。参加学生はただ体験するだけでなく、団体の活動の趣旨・目的も理解できたと思います。

第3回の振り返りは、活動先での体験を共有・意見交換し、ボランティアとは何かを改めて考えることができました。先輩の学生スタッフがファシリテーターとして参加者に寄り添い、意見を引き出し、アドバイスしてくれました。みんなで振り返ることによって得られることも多かったと実感します。

今後も引き続きボランティアに興味を持ち続け、実際にボランティアを探しにセンターへ来てくれることを期待しています。コーディネーターも、アンケート結果を基にプログラム内容にもさらに工夫を凝らし、企画を立てる必要があります。

嬉しいことに、今回初めて教員2名の受講がありました。次年度も教職員の皆さんに受講を呼びかけていきたいと思っています。

〈報告者：古澤 登美代

(瀬田キャンパス コーディネーター)〉

事業名	第1回ボランティアリーダー養成講座 「今、何が社会課題？～ひらめき、気づきを企画にしよう～」
実施日	2018年8月7日（火）13時00分～16時00分
場所	瀬田キャンパス 2号館多機能教室
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	本学学生45名

1. 経緯・目的

ボランティア活動、サークル活動をしていく上で、なぜ活動するのか、何のために活動するのかを常に考える必要があります。そして、それらは社会課題に見合っているのかも。今回の講座では、社会に関心を持ち、社会から必要とされる企画へとつなげていってほしいと願って、ボランティア活動を行っている学生やサークルでボランティア活動に関わっている学生、教職員などを対象に実施しました。阪神・淡路大震災の翌年に学生有志で『きょうと学生ボランティアセンター』（現・NPO 法人ユースビジョン）を設立し、学生のボランティア活動支援や団体のマネジメント支援に取り組んでこられた赤澤さんを講師に招きました。

2. 概要

講師：赤澤 清孝氏

（特定非営利活動法人ユースビジョン代表、大谷大学文学部社会学科准教授）

内容：

1) 講演：「今、何が社会課題？～ひらめき、気づきを企画にしよう～」

- ・社会課題に気づき、解決するための企画力
- ・社会課題って何？
- ・ひらめき、気づきはどのようにして生まれるの？
- ・ひらめき、気づきを企画にするのは？
- ・企画を満たすための3つのポイント（ニーズに合っているか、目新しさ、方向性・具体的方法）

2) ワーク

- ・自分が考える社会課題を書いてみよう
- ・ひらめきクイズ
- ・社会問題への気づきを促すワーク
- ・企画のキモはコンセプトづくり
- ・「やりたいこと」「やれること」「社会から必



要とされていること」をしっかりと分析
3) 卒業生の実例紹介（学生時代に地元の野菜を使ったベビーフードの会社を起業）

3. 参加者の声・得られた効果など

- ・自分の行いたいプロジェクトの立ち上げに向けての道筋が少しずつ見えてきた。企画から計画に移すための土台作りに必要な情報収集の例を実感できた。
- ・10個の問いについてグループで共有しているときに、人によって興味のある社会問題が異なり偏っていることがわかった。あまり興味のなかった問題について話す機会ができてよかった。
- ・「やりたいこと、やれること、社会から必要とされていること」この考え方は企画だけでなく他の場面でも役立つと思い、ぜひ覚えておこうと思った。
- ・龍大卒業生のビデオを見れてよかった。社会課題に気づき、アイデアを行動に移せるのはすごい。
- ・思い込みで企画するのはNGと聞いて、今後は思い入れを大切に活動を進めたい。
- ・グループワークを通して、自分の視点の狭さを実感したが、自分に問いかけ、1つの議題に隠された背景にじっと目を向けることでまた違った気づきがあるとわかった。
- ・1回生でまだ企画をしたことはないが、企画をする際にどういうことに意識を向けるか、どうすれば視野が広がるかがわかって、とても勉強になった。

4. コーディネーター所感

個々人の気づき、思いつきが温められ、やがてその活動をしたという思い入れへと変わり、企画にできるんだということを経験して学べました。時間がもっと欲しかった、企画を実際に立ててみるまでをやりたかったという感想が多く、満足度の高い講座になりました。今回の講座を、今後の活動にぜひ活かしてほしいです。

〈報告者：古澤 登美代

（瀬田キャンパス コーディネーター）〉

事業名	第2回 ボランティアリーダー養成講座 「コミュニケーション力UP～自分と周りがイキイキ活動できるグループ運営のために～」
実施日	2019年2月4日（月）13時30分～16時30分
場所	深草キャンパス 和顔館 B106教室
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	本学学生43名

1. 経緯・目的

ボランティア活動などをグループで進め、運営していく上で、メンバーをエンパワメントしたり物事を決めたりする際のコミュニケーション力は、とても重要な要素となってきます。更に、学生団体は毎年代替わりしていくため、新体制でどのように活動を進めていくかを考えたり、新入生や新スタッフが入ってきた時にスムーズに活動していける雰囲気作りも大切です。

これらのことから今年度第2回となる本講座では、メンバーの関係性により影響を与えるワークショップを交えながら、コミュニケーションスキルを向上させることを目指して実施しました。

2. 概要

講師：山本 彩代 氏

(NPO 法人 場とつながりラボ home's vi)

内容：

1) 自己紹介ワーク『4つの窓』

各自の名前、普段していること、近況、今の気持ちなどをグループ内で共有

2) アイスブレイク『絵の伝達競争』

①～⑩の付箋をグループ内で順番に取り、その裏に書かれたお題を絵だけで伝え、グループ対抗で早さを競う。

3) 講師の自己紹介と学生団体時代の体験談

4) ワーク①『いいはなしあい わるいはなしあい』

今まで経験した話し合いで悪い印象のものと、どんな話し合いが良いのかをグループ内で出し合い、全体で共有

5) ミニ講義

会議を行う際に大切にしたいOARR、見える化、ゴールと目標の話など



6) ワーク②『自己共感と4つの耳』

話し合いの中で自分自身や相手を非難してしまう状態をジャッカル、受入れて心を開いている状態をキリンに置き換え、それぞれの役割で意見を言い合う。

7) 気づきや感想の共有

ワーク①でいいね!と思った意見に☆マークをつけていく

3. 参加者の声・得られた効果など

- ・今、自分たちがしているミーティングが良いものなのか悪いものなのか、客観的に見て考えられる機会になった。相手や自分を否定したり決めつけたりするのではなく、想像力を豊かに、色々な視点でとらえていくことが大切なのと思った。
- ・人と話し合いをすることはとても難しいけど、この講座を受けて恐れずに話し合いをして、もし雰囲気が悪くなくても「ウェルカム・トラブル」と受け止めて頑張っていきたいと思った。
- ・4つの耳で聴くワークが難しいと感じたということは、普段できていないことだとわかったので、たくさんの視点から物事を見る練習をしたいと思います。
- ・自分自身話しやすい場と話しにくい場、ミーティングの課題などがいろいろあったのをうやむやにしている部分があったので、この機会にもっと深くチームでの話し合いについて考え、分析して次年度より良いものにしていくと感じた。

4. コーディネーター所感

山本さんの話し方がとても聞きやすく、まさに「話しやすい雰囲気」で講義が進みました。最初少し緊張気味だった学生たちも、アイスブレイクやワークが進むにつれて活発に意見交換できるようになり、前述のような感想が得られました。今後もセンターでは、参加学生が色々な気づきが得られるような講義を提供できるように取り組んでいきたいと考えています。

〈報告者：ヒギンズ 尚美

(深草キャンパス コーディネーター)〉

事業名	ボランティアコーディネーション力3級検定 ～市民の社会参加を支える“チカラ”を身につけよう！～
実施日	2018年9月22日（土）直前研修ならびに検定試験
場所	深草キャンパス 21号館101教室
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター／特定非営利活動法人 日本ボランティア コーディネーター協会
参加人数	学生20名、一般11名 合計31名

1. 経緯・目的

本学学生や地域で市民活動に取り組んでいる人々が、市民活動への理解を深め、実践的な取り組みの担い手として活動できる力をつけることを目的として、特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会が主催する「ボランティアコーディネーション力3級検定直前研修並びに検定試験」を共催実施しています。

2. 概要

(1) 当日の流れ

直前研修

主催者挨拶およびオリエンテーション

【講義】ボランティアコーディネーション力検定

【講義】今なぜ、ボランティアコーディネーション力なのか？

【講義】ボランティアの理解

【講義】ボランティアコーディネーションの理解

検定試験

(2) 受験資格【※年齢は問いません】

※①②③のいずれかに該当していること。

①これまでにボランティア活動の経験がある。

②これまでに地域社会、組織（施設・機関、NPO など）においてボランティアコーディネーションに関わった経験がある。

③ボランティアコーディネーションに関わる予定がある。

(3) 受験料

・本学学生：6,380円

（受講料：無料、テキスト代：2,380円、検定料：4,000円）

・その他、一般：11,700円（全て込みのセット価格）

(4) 講師

筒井のり子氏

龍谷大学社会学部教授

日本ボランティアコーディネーター協会理事

早瀬 昇氏

日本ボランティアコーディネーター協会副

代表理事

社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事

日本ファンディング協会 副代表理事

3. 参加者の声

本学学生「今回の検定や直前研修で学んだことを、日頃のボランティア・NPO 活動センターの学生スタッフとしての活動に活かせるように、自分の中にしっかりと落とし込んでいきたいと思います。」「検定に合格するために勉強をする過程で、ボランティアの概念、ボランティアコーディネートについて学びました。コーディネートの機能は様々な社会課題を解決していくために必要なものであると感じました。今後検定での学びや得られた内容を活動の中で活かしていきたいと思います。」

一般参加者「ボランティアとは何か、ボランティアコーディネートとは何かということを整理することができました。整理したことをしっかりと理解につなげ、日常の業務に活かしていきたいと思います。」

4. コーディネーター所感

日頃、職場や地域でボランティアに関わっておられる一般の方と、センターでボランティアコーディネーションを行っている学生達が共に学ぶことができる貴重な機会です。広くボランティア、市民活動について学ぶことによって、これからの人生や活動により気付きを得ることができれば、という思いで実施しています。共に学び会い、共感する中で得るものがあります。ぜひ様々な分野の方に参加していただければと思っています。

〈報告者：上手 礼子

（深草キャンパス コーディネーター）〉

